

体育科学習指導案

平成29年11月20日（月）第3校時（体育館）3年2組

I 単 元 鉄棒運動

II 考 察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

互いに励まし合い、安全に気を付けながら、補助逆上がり、だるま回りに進んで取り組む態度

①知識・技能

補助逆上がり、だるま回りの行い方についての知識や、補助逆上がり、だるま回りの技能

②思考力・判断力・表現力等

補助逆上がり、だるま回りに向けた運動課題を見付ける力や課題解決のための練習方法を選ぶ力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

B 器械運動

- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。
イ 鉄棒運動では、支持系の基本的な技をすること。
- (2) 自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

(3) 本単元の価値

本単元は、「3の2鉄棒発表会」に向け、鉄棒運動の補助逆上がり、だるま回りに取り組む学習である。その価値は以下のとおりである。

鉄棒運動は、体を振り上げて鉄棒に上がったり、体を支持し、そこから前方や後方に回転したり、鉄棒を介して非日常的な動きに取り組む中で、回転感覚やできなかったことができるようになる達成感を得ることができる。また、「3の2鉄棒発表会」に向け、友だちと運動を見合い、技の出来映えを披露する中で楽しさや満足感を得ることができる。

鉄棒運動の補助逆上がり、だるま回りは、局面ごとに互いの動きを見たり、演示と比べたりすることで、動きのポイントを見付けることができ、そのポイントを踏まえて自分の課題を明確にもつことができる。そして、その課題解決に向けて、自分の課題に合った練習方法を選び、アドバイスをし合いながら取り組むことができる。

補助逆上がりは、両脇をしめて鉄棒をつかみ、足の大きな振り上げをすると同時に上体を後方に倒し、腰を鉄棒に近付けて回転して上がる。補助具を用いることにより腰の位置を固定できた

り、回転の補助ができたりすることで、腕支持から後方への回転感覚を手軽に味わうことができる。だるま回りは、正面での支持から胸を張ったまま前方や後方に回転し、鉄棒の真下を通るときに両手でタイミング良く太腿を抱え込み、膝の曲げ伸ばしを使って勢いをつけ、前方や後方へ回転することができる。こうした回転感覚が今後、発展技である逆上がりや後方支持回転を行ったり、それらの技を繰り返したり、組み合わせたりすることへつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、4年「鉄棒運動」で、逆上がりや後方支持回転、両膝掛け振動下りを行ったり、上がり技－支持回転技－下り技を組み合わせたりする学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「鉄棒ランド」において跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りの学習をしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りの行い方を理解し、それぞれの技ができるようになってきている。このような子どもたちが、補助逆上がり、だるま回りの行い方を理解できるように、全体で技の行い方を共有する活動を設定する。また、それぞれの技ができるように、手本となる子どもの動きを基に、コツを伝え合う場を設定する。
- ② 跳び上がりや跳び下り、ふとん干し振りやこうもり振り、足抜き回りの動きのよいところを踏まえ、友達のよい動きを見付けることができるようになってきている。このような子どもたちが、補助逆上がり、だるま回りの動きのポイントを踏まえ、踏み切り位置、振り上げ足の方向、膝の曲げ伸ばしといった自分の課題を見付けることができるように、跳び箱、踏み切り板、ケンステップ、風船棒、回れたかなシートで動きを視聴覚化する教具を用意する。
- ③ 安全に気を付けながら、きまりを守って仲良く鉄棒遊びができるようになってきている。このような子どもたちが、発表会に向けて、安全に気を付けながら、互いに励まし合い、進んで準備や片付けに取り組んだり、友達のよい動きを認めたりすることができるように、互いの動きを見合ったり、励まし合ったりするクライマックスのイベントを設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 自分の課題に合った練習方法を選び、踏み切り位置、振り上げ足を視聴覚化できる跳び箱、踏み切り板、ケンステップ、風船棒で動きを判断し、アドバイスし合うことを通して、補助逆上がりができる。
- 2 準備 逆上りの連続図 跳び箱 踏み切り板 ケンステップ 風船棒
- 3 展開

学習活動と子どもの意識

指導上の留意点

<p>1 本時のめあてをつかむ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間では踏み切り位置が鉄棒から遠くなってしまったから、踏み切り位置を鉄棒に近付けるための練習をしたいな。 ・練習方法を選び、アドバイスをし合って、補助逆上がりができるようになろう。 <p>2 自分の課題に合った練習方法を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切りの位置を鉄棒の近くにすると足を振り上げられそうだな。踏み切り板とケンステップを置いてやってみよう。 ・踏み切り板で踏み切り位置と音を確認できると補助逆上がりができそうだな。 <p>3 自分の課題に合った練習方法で補助逆上がりに取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切り板とケンステップを使うと、踏み切りの位置がわかりやすくなって、上に足を振り上げられるようになってきたぞ。 ・踏み切りの位置が分かってきたぞ。見ている友達にも踏み切り板のケンステップの中で踏み切りができていってと言ってもらえたな。 ・足で踏み切り板をける音も大きくなってきたぞ。この調子で安全に気を付けながら練習すれば補助逆上がりができそうだな。 ・最後は踏み切り板を外してやってみても、鉄棒の真下より少し遠いところで踏み切ると、腰も鉄棒に近付いて振り上げ足を頭上に上げて上がったぞ。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏み切り板を使って練習したら、踏み切りの位置がわかって、足を上に振り上げて補助逆上がりができるようになったな。 ・次はだるま回りだな。まず動きのポイントを見つけていこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題を想起できるように、学習プリントの記述を見返すよう促す。 ○練習方法を選んで、補助逆上りの動きを判断しアドバイスをし合うという本時の見通しをもつことができるように、課題を解決する方法を問いかける。 ○前時に共有した補助逆上りのポイントを基にアドバイスできるように、局面ごとに示した逆上りの連続図で確認するよう促す。 ○課題に合った練習方法を選び、補助逆上がりができるように、踏み切り板、跳び箱、風船棒の使い方を例示する。 ○補助逆上りの動きを判断することができるように、踏み切り位置、振り上げ足を視聴覚化できる跳び箱、踏み切り板、風船棒を用意し、つま先の位置に着目するよう促す。 ○補助逆上りの動きを評価することができるように、挑戦する人と観察する人を設定し、動きの可否を伝えるよう促す。 ○補助逆上がりができるように、練習方法を選び、繰り返し、グループで運動に取り組むよう促す。 ○安全に取り組むことができるように、順番や見る位置等の約束事を守れている子を賞賛する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">足を振り上げて、腰を鉄棒につけて補助逆上がりができる。 <行動①></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○練習方法の妥当性と動きの出来映えを振り返ることができるように、本時の振り返りの視点を提示し、問いかける。 ○次時への見通しをもつことができるように、だるま回りの動きのポイントを見つけて、自分の課題を考えていくことを伝える。
--	--

指導と評価の計画（全7時間）

目標	互いに励まし合い、動きのポイントを見付けて、補助逆上がり、だるま回りができる。			
評価規準	<p>① 知識・技能)補助逆上がり、だるま回りの行い方を理解し、安定した補助逆上がり、だるま回りができる。</p> <p>②思考力・判断力・表現力等)補助逆上がり、だるま回りの動きの中で腰の位置、踏み切り位置、振り上げ足、膝の曲げ伸ばしのポイントを見付け、自分の動きと比べて、課題に合った練習方法を選んでいる。</p> <p>③学びに向かう力・人間性等)グループでアドバイスし合い、安全に気を付けながら、補助逆上がり、だるま回りに取り組もうとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○試しの鉄棒運動(技調べ)を行い、共通のめあてと自分のめあてを立てる。 ・共通のめあて 「3の2鉄棒発表会に向けて、補助逆上がり、だるま回りを取り組み、技をできるようにしよう」	○発表会に向けて自分の課題を把握し、それを基に具体的なめあてを立てられるように、試しの運動をして気付いたことや思ったことを振り返る活動を設定する。	◇補助逆上がり、だるま回りに取り組み、試した感想や自分の課題を基にした具体的なめあてを記述している。 <学習プリント③>
追求する	1	○補助逆上がりの動きのポイントを見付ける。	○補助逆上がりの動きのポイントに気付くことができるように腰の位置、踏み切り位置、振り上げ足の方向を観点として提示する。	◇補助逆上がりの足を勢いよく振り上げて、腰を鉄棒につけて回るというポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○自分の課題に合った練習方法で、補助逆上がりに取り組む。(本時)	○補助逆上がりの動きを判断することができるように、踏み切りの位置を視聴覚化する跳び箱と踏み切り板、振り上げ足の位置を視覚化する風船棒を用意する。	◇足を振り上げて、腰を鉄棒につけて補助逆上がりができる。 <行動①>
	1	○だるま回りの動きのポイントを見付ける。	○だるま回りの動きのポイントに気付くことができるように膝の曲げ伸ばしを観点として提示する。	◇だるま回りの膝を曲げ伸ばして振るというポイントを記述している。 <学習プリント②>
	1	○自分の課題に合った練習方法で、だるま回りに取り組む。	○だるま回りの動きを判断することができるように、膝の曲げ伸ばしを視覚化する回れたかなシートを用意する。	◇膝を曲げ伸ばして振り、だるま回りをすることができる。 <行動①>
	1	○今までのポイントを踏まえた補助逆上がり、だるま回りに取り組む。	○補助逆下がり、だるま回りができるように、手本となる子どもの動きを基に、コツを伝え合う場を設定する。	◇安定した補助逆上がり、だるま回りができる。<行動①>
まとめ	1	○「3の2鉄棒発表会」で今までのポイントを踏まえ補助逆上がり、だるま回りを取り組み、学習のまとめをする。	○補助逆上がり、だるま回りができた達成感を味わえるように、発表会で互いの動きを見合い、感想を伝え合う場を設定する。	◇補助逆上がり、だるま回りをして自分や友達の動きの良さを発言したり、記述したりしている。 <学習プリント③>